

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101489		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン井手園 5F		
所在地	長崎県西彼杵郡時津町元村郷897番地		
自己評価作成日	平成27年2月12日	評価結果市町村受理日	平成27年5月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成27年3月13日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

モン・サン理念である『優しく・楽しく・元よく いつも笑顔で』を掲げ、職員は日々、入居者様に寄り添うケアを心掛けています。母体の医療機関との連携も密にとっており、地域医療、高齢者医療を実践していますので、入居者様、ご家族様とも安心して頂けると思います。また、『ひやりはっと・事故防止』『身体拘束・高齢者虐待防止』『感染症予防』委員会活動を月に一度開催し、サービスの質の向上に努めています。当事業者は少し高台に立っており、7階建ての建物のどのフロアからも四季折々の風景を楽しむ事ができます。また、地域の清掃活動や敬老会への参加や毎年恒例となった夏祭りには多くの近隣住民の皆様にお越しいただいており、地域に根差した施設運営の努めています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「楽しく優しく元よく」という理念を基に、利用者が馴染みの地域で生活が継続できるよう、グループホーム単独ではなく、法人全体として積極的に取り組んでいる。運営推進会議においては回を重ねる毎に、ホームの特徴や思いが浸透し、包括支援センターと自治会のメンバーとの会話から、「認知症カフェ」など利用者を含む地域の高齢者が安心して過ごせるための具体的な企画が進行している。法人が設置している身体拘束委員会・ヒヤリハット事例検討会・感染症予防委員会に職員が属しており、職員が主体となった委員会活動はサービス提供者として力を養うことに繋がっている。事例検討会では、自立に向けた意見交換が実践に繋がっている。次年度は母体法人与行政の協力を得て、休止しているユニットの再稼働を予定しており、地域密着型としてさらなる活躍が期待されるホームである。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	外部の方にもご家族にもわかりやすい言葉で事業所の理念を掲げ、管理者と職員は共有して実践しています。	職員は理念の意義を理解している。年1回、法人全体で理念についての勉強会を実施し、職員が理念を再認識する機会となっている。ヒヤリハット事例の改善策にも理念の文言の記述を用い、理念がケアに反映しているかを振り返り、常に意識付けしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との繋がりを重視し、敬老会や文化祭の作品出展等参加しています。またボランティア慰問での交流等お受けしています。	法人が地域活動の窓口となり、ホームと地域の交流が潤滑になるよう取り組んでいる。地域の清掃活動や敬老会、イベント等に職員は利用者と参加している。現在、認知症キャラバンメイト活動や認知症カフェの開催等、地域との更なる交流を目指し活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々へホームを知って頂くよう、役場等の方々には認知症を理解してもらえよう様、意見交換を行うよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見・要望を参考に、ホームではより良い改善案を出し、実現につなげる努力をしています。	規程メンバーで年6回会議を実施している。ホームの運営状況や行事、消防訓練、研修会の報告の後、参加者による意見交換を行っている。地域の高齢者の生活現状についても議題として協議している。会議で出た要望等は出席職員が各ユニットに伝え、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場や地域包括支援センターとは連絡や相談を行っています。役場からもホームの苦室状況、見学の問い合わせをいただく事もあります。	利用者の介護申請手続きや各種必要な手続きで、行政各課や包括支援センターと日頃から連携を取っている。今年度は指定更新もあり、高齢者支援課と空室状況を含め運営について協力関係を築いている。また、行政から介護や運営に関する情報を得たり、研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を月1回開催し、決して拘束をする事が無いよう、職員間でより安全で快適な介護を実践するよう努めています。	年1回法人全体研修を開催している。ホーム内に身体拘束・虐待防止委員会があり、日々の事例をもとに検討シートを作成し、具体的な対策を検討している。言葉の拘束だけではなく、不適切ケアについても全職員で話し合っている。日中は施錠せず、利用者に寄り添って見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は常に虐待を見逃すことが無いように防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や会議等で話し合い、それを活用できるように学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章やパンフレット等を用いて説明を行い、入居者や家族の不安・疑問等にも十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族、利用者、地域住民に参加してもらっている。	外部相談窓口や意見箱など、家族の要望・意見への対応等について契約時に説明している。職員は面会時や電話の際に家族が話しやすいよう、声掛けしている。現状は利用者個別の支援についての要望のみである。ホームは家族からの意見も出やすい雰囲気を目指し、新たな取り組みを検討中である。	ホームが意識しているサービス提供者としての取組みとして、ホーム便りやアンケート、家族が集えるような企画等の検討を期待したい。取組みにより、家族がホームに興味を持ち、利用者のために意見を出しやすい関係となることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員との個人面談や数人単位と話をする機会を設け、運営や日々のケアに関する意見交換を行っている。	年1回、管理者が面談する他、毎月の会議や日々の申し送り時に、職員は意見や提案を行っている。ソファや食卓テーブル購入時は、職員の意見を取り入れている。また、入浴介助備品購入により、利用者が入浴しやすくなった事例がある。シフトは希望を反映し、働きやすい環境整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望休みを受け入れ、働きやすい環境・条件に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、研修会を開催し職員のケアの知識を高めたり、外部研修も働きながらトレーニングできるよう取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設間で研修を行うなど、サービスの質の向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の不安・要望を受け入れ、安心して頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に対しても本人と同じように不安・要望を尋ねながら安心して頂けるよう対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族が必要とされているサービスの提供が受けられるよう対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をさせて頂くというだけでなく、家族の方のように安らげる関係を保てるように努めています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設の行事へのご家族の方の参加や、外出・外泊の支援等、入居者・ご家族の関係を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方のご訪問や希望される場合は連絡が取れるよう支援に努めています。	利用開始時に、交友関係や生活歴など本人や家族から聞き取り、利用開始後も馴染みの支援ができるよう情報を得ている。家族や知人の訪問は自由で、居室やリビングなど寛げるよう支援している。法事や自宅への帰宅などの他、馴染みの場所への外出は家族の協力で実現している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方が他の入居者の方々と関わり合いながら、共に楽しく日々を過ごしていけるよう都営組んでします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人やご家族からの相談やご意見は快く応じ対応するように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の今までの暮らしなどをお聞きしている ので、その意向に沿って生活が出来るように努めています。	6ヶ月毎、アセスメントシートを作成する際に、利用者の思いを聞きフェイスシートに記入している。また、日常会話の中からその日の思いや希望する暮らし方などの思いを汲んでいる。得た情報や気付きは、ケア会議で検討し、支援に活かしている。また、個人記録に記載し、職員は情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ひとり一人の生活歴や暮らし方をお聞きして、サービスを検討し実践できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人の出来る事・出来ないことを把握したうえで、その方に適した一日が過ごせるように支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族とも話せる場を作り、本人の希望などを実現出来るよう、職員間で意見交換を重視しながら介護計画を作成するよう努めています。	各ユニットのリーダーが介護計画を作成し、ケアマネージャーが確認し支援を開始している。職員は日常生活での気づきやヒヤリハット報告等ケア会議で話し合っており、3ヶ月ごとのモニタリング、6ヶ月ごとの評価を行っている。家族の要望等は面会時や電話で聞き、計画に取り入れており、本人・家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子などを毎日細かく記録する事で、介護の実践に活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況などに応じて病院受診の付き添いや外出時の見守り等、柔軟な対応を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に参加できるかを把握し、実行に移すことで、楽しい日々を送って頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期的な受診や、受診が困難な入居者には主治医が往診を下さっています。また、体調が悪い時や眼科・歯科耳鼻科等の専門の医院にも受診が出来るよう支援しています。	利用開始前に、かかりつけ医の対応について、母体医療機関との関わりを説明し理解を得ている。月2回往診があり、眼科や耳鼻科等専門医の受診時は主治医の指示を仰いでいる。受診内容は、その都度家族へ報告している。また職員も申し送りや業務日誌で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルサインチェックを毎日行い、異常がある時や顔色が悪い時、食欲がない時などは看護師に相談をして支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をされた際は、病院と相談する事で安心した治療をしてもらい、ホームへも出来る限り早期に戻れるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の際に重要事項説明にて方針を説明、納得いただくよう努めている。	事業所は「重度化した場合の対応に係る指針」を作成しており、本人・家族へ契約時に説明し、同意を得ている。重度化してきた段階に応じて、家族と主治医が話し合っており、職員は、本人・家族が希望する生活できるよう事業所でできる限りの支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変等に備えて研修や勉強会などに参加をし、対応が出来るよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	災害発生時に入居者を迅速に避難させる事ができるように定期的に避難訓練を行っており、運営推進会議等にて自治会との協力関係を築いている。	年2回、火災訓練を実施しており、内1回は夜間想定で消防署立会いであり、消火訓練も行っている。ユニット毎に避難経路誘導マニュアルを作成したり、抜き打ちで訓練を行ったり、火災時避難対応についての勉強会を行っている。備蓄は水、食料ともに3日間分は確保している。ただし、訓練に地域住民の参加がない。	運営推進会議の際に自治会に訓練の報告や声掛けしているが、参加には至っていない。更に協力を呼びかけ、地域との連携を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人を尊重し、明るく丁寧に接するように心がけています。	職員は利用者の尊厳を重視した言葉遣いに配慮している。名前の呼び方や接遇は職員間で統一している。失禁など失敗した場合も、周りに気づかれないよう羞恥心に配慮している。職員は守秘義務の誓約書を提出しており、個人情報に関わる書類は事務所で適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを否定せず、希望を出せるような場であるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先せず、その方のペースに合わせ日々過ごせるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひとり一人の好みに合わせ、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとり一人の好みを献立に取り入れたり、その方の状態に合わせた食事の提供を行っています。	職員は利用者の嗜好を聞き、法人管理栄養士が作成する献立に反映している。各ユニット職員が調理し、利用者の咀嚼状況に合わせて盛り付けを工夫している。手作りの誕生日ケーキ、季節行事に合わせた食事、ピクニック弁当を作り、いつもと違う雰囲気食事を楽しむ取組みもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取の記録を取り、栄養バランスや水分量が確保出来るよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は歯磨きを行って頂き、難しい方には職員が口腔ケアを行い、口腔内の清潔を保つようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らし、定期的に言葉かけやトイレ誘導を行い、オムツの使用を減らしたり、自立に向けた支援を行っています。	排泄チェック表を個別に作成し、時間や利用者の仕草からトイレへ誘導している。職員は利用者の排泄時の状況を把握しており、居室トイレでの座位排泄を支援している。事例検討会やケア会議で、支援内容を検討し、布パンツ使用に改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレ誘導や水分補給を心がけ、毎日の運動を行っています。改善が見られない方は医師に報告・相談を行い服薬の調整等対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ひとり一人の体調を観察し、時間を決めてしまわず、ひとり一人が入浴を楽しめるように心がけています。	各ユニット毎に入浴日を決めている。入浴拒否時は、声掛けや時間を変えて誘導している。本人の希望で、別のユニットで入浴することもある。個浴が難しい場合、併設デイサービスのリフト浴も使用できる。日常の入浴時間は、個人の希望を優先し、ゆっくり入浴を楽しむように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事の後はすぐに横にならず、ゆっくり過ごして頂き、日中は出来る限り昼寝をしすぎず、夜間よく眠ることが出来るよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効用を把握し、体調の変化に合わせて医師と相談して服薬の支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人の持たれている能力を活かし、役割を持つことで、ホームの生活が充実するように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じられるように職員が付き添いのもと、外出されたり、普段行けない場所にはご家族に協力して頂いています。	天候や利用者の体調に配慮しながら、外出を支援している。ホーム周辺や公園まで散歩をしたり、利用者毎の希望の外出は、家族の協力を得て行っている。ホームの外出企画では、足湯や花見など季節の風景を見物に出掛け、大勢での外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の方々が生活されており、お金を所持することにより困惑の原因にもなりかねないため、多くの方はご家族に管理して頂いています。お金の管理が可能な方には所持して頂き、お買い物などにも行かれています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人の方との関係が途切れる事がないように、電話や手紙のやり取りについて支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は入居者にとって不快にならないよう、綺麗にし、また光、温度なども刺激がないよう調整しています。ホールでは季節を感じて頂けるよう飾りなどで明るく居心地良く過ごせるよう工夫しています。	共有空間は各ユニットごとに季節を感じる装飾を施したり、写真、利用者との共同作品等飾っている。新調したテーブルセットは車椅子の利用者も使いやすい高さであり、椅子に付いている杖立てなど利用者の安全性を重視している。掃除は職員が分担し毎日行っており、居心地のよい空間を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたいときの居室、入居者同士でのおしゃべりや歌などを歌って楽しく過ごせるホールがあり、入居者全員が楽しく過ごせるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた品物をご自宅から持ち込んでいただき、本人が違和感なく毎日を居心地良く過ごせるように工夫しています。	テレビやソファ、椅子等使い慣れたものを配置しており、家族写真や時計等、居室の装飾は自由に行っている。利用者によっては安全性を保つためマットレスのみ使用するなど個々に合わせて支援している。職員は居室の清掃を行っており、気になる臭気もなく、利用者が毎日快適に過ごせるよう室温も調整している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は段差がなく移動しやすいようになり、浴室や廊下には手すりがあり、各居室にはトイレを設置しています。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101489		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン井手園 2F		
所在地	長崎県西彼杵郡時津町元村郷897番地		
自己評価作成日	平成27年2月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

モン・サン理念である『優しく・楽しく・元氣よく いつも笑顔で』を掲げ、職員は日々、入居者様に寄り添うケアを心掛けています。母体の医療機関との連携も密にとっており、地域医療、高齢者医療を実践していますので、入居者様、ご家族様とも安心して頂けると思います。また、『ひやりはっと・事故防止』『身体拘束・高齢者虐待防止』『感染症予防』委員会活動を月に一度開催し、サービスの質の向上に努めています。当事業者は少し高台に立っており、7階建ての建物のどのフロアからも四季折々の風景を楽しむ事ができます。また、地域の清掃活動や敬老会への参加や毎年恒例となった夏祭りには多くの近隣住民の皆様にお越しいただいており、地域に根差した施設運営の努めています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な管理者と職員のスーパービジョンを中心に、当法人の理念をもとに入居者ひとり一人の思いに沿った介護の共有・実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	気軽にホーム内のイベント等に近隣住民の方々が楽しく参加して頂けるよう、広報活動に力をいれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方々の「個性」に重点を置き、交流を通して、身近な存在である事を少しでも理解いただけるよう、地域活動や行事等へ参加を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において参加して頂いた方々の意見や要望を取り入れ今後のサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場や地域包括支援センターとは連絡や相談を行っています。運営推進会議への参加や空室状況、施設見学などの問い合わせもある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について月1回カンファレンスを行い、委員会の職員を中心に拘束を行わないケアに取り組んでいます。施錠については防犯上の夜間を除いては自由に出入りが出来るようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修会に定期的に参加している。日々のケアにおいても言葉や対応が一つ違うだけで虐待になりかねない事を意識し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方々に成年後見人制度を利用している方が、知識として学ぶ機会を設け、必要性を話し合い、活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	小さな疑問から、要望についても伺い、不安・疑問がないよう理解・納得して頂けるよう十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族、利用者、地域住民に参加してもらっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員との個人面談や数人単位と話をする機会を設け、運営や日々のケアに関する意見交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、労働条件における小さな疑問にも理解、納得の出来る説明を行い、職員ひとり一人が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力、意欲について十分に発揮できるように、法人内で定期的に研修会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、ご家族より意見、要望を聞けるよう施設見学の機会を設けており、安心して利用して頂けるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安・要望をご家族が気軽に話せるような機会を設け入居やサービス内容に関する相談にいつでも応じられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実際に入居する前に面談を行い、本人・家族が現在必要と思っている事を聞き、要望に合わせたサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事、出来ないことを把握し、趣味活動やレクリエーションを通し、日々の暮らしについて考え、支えあえる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に入居者本人の日常生活状況等を面会時や適宜電話連絡を行い、報告、説明し、共に本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本院様の知り合いや馴染みの方が気軽に面会や外出が出来る関係、雰囲気作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者それぞれの状態や、好み趣味について把握し、交流の場を設け時には職員がコミュニケーションの橋渡しとなり、関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に相談や訪問して頂けるよう、気兼ねない関係作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のこれまでの生活歴、現在の状況把握に努め、希望・意向を最優先に出来る事を活かしながら日々の暮らしを過ごせるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者本人や家族からの情報を基に、日々の生活を通して、ひとり一人にあったその人らしい暮らし方や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや記録から職員間で情報を共有し、毎日の心身の状態、生活の状況について把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者本人や家族からの希望・要望を基に職員間でアイデアや意見を出し合い介護計画の作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報の共有を図り、入居者の日々の様子やケアの実践状況を個人カルテに記録している。その中で、状態の変化、気づきがあればカンファレンスを開催して計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者本人やご家族の状態、要望に応じて、ユニット内での入浴が困難な場合についてはリフト浴を利用して頂く等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内で安心して生活を楽しむことが出来るように、本人の意向を踏まえて、ホーム内の見学、交流依頼等、地域との係りを大切にしながら支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者が必要な医療を受ける事が出来るよう、受診の送迎や日々の体調等についてかかりつけ医に連絡、相談を行っている。また、受診が困難な入居者についてはかかりつけ医に往診して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携ナースへ入居者の日々の体調や気づきを報告・相談している。また、必要に応じて協力病院への相談等支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期治療・早期退院については協力医療機関と協力体制が整っており、日常的に入居者の体調の変化等については情報共有が出来る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の際に重要事項説明にて方針を説明、納得いただくよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時のマニュアルが各フロアにあり、いつでも職員は確認できるようになっている。また、定期的な研修も開催されており、実践力を身に付ける環境を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を定期的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	災害発生時に入居者を迅速に避難させる事ができるように定期的に避難訓練を行っており、運営推進会議等にて自治会との協力関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまでの生活歴や環境を知り、その人の人格を尊重しながらその人らしい生活が出来るよう、尊厳とプライバシーに配慮した対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自分らしい自己決定が出来るよう、入居者ひとり一人に合わせ、思い、希望が表現できる環境や関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望に沿った生活が出来るように、入居者ひとり一人の生活リズムを尊重して、個別援助に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿えるように望まれるおしゃれ、身だしなみを本人に確認して支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好みのメニューを献立に活かし、誕生日ではケーキ作りを一緒に行ったり、その日の体調や気分に応じ、可能な範囲で食事の準備、後片付けを手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士がバランスを考え作成している。食事量や水分量は職員が把握できるよう記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアについて、入居者ひとり一人に清潔保持の大切さを説明するように心がけ、本人の出来ない部分について支援するように努めている。また、歯科往診時に状態を報告し、指示・アドバイスを頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	不快なく排泄が出来るよう身体状態、生活状況に応じたトイレへの言葉かけ、説明を行い、排泄パターンの把握に努め、オムツ使用の適正化に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ひとり一人の状態に合わせた食事の工夫と、心身に負担がない程度の運動を勧めたり、水分補給等にて予防に取り組んでいる。また、服薬の調整等、主治医との連携にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人が気持ちよく入浴が出来るように、その日の体調等を考慮し、強制する事が無いようにひとり一人に合った入浴支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に安眠できるように、各自の状態を考慮しながら、趣味活動やレクリエーション、ラジオ体操等にて日中の活動を促すように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に携わる職員全員が薬の内容について具体的に把握できるよう入居者毎の薬の説明書きがあり、服薬時には必ず本人のものか名前を読み上げて服薬支援にあっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やそれまでに頑張ってきたこと、思い出を共に話し合い、役割や楽しみを持ってもらえる様努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各自の要望、内容に応じ、お買い物等の外出支援を行ったり、季節によって家族を誘ってピクニックに出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る入居者には、各自で管理して頂き、困難な		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の状態に合わせて電話、郵便のやり取りが出来るよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間において、本人に不快感・違和感を与えるような物は本人の意思を確認したうえで取り除き、色調・室温調整もこまめに行い、快適に過ごして頂けるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりでくつろげる居室、皆で楽しく過ごせるリビング、食堂があり、その時の気分に合わせて過ごして頂けるよう環境を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が希望される居室作りを支援するため、本人・家族と相談、話し合いを行い、これまで使用されていた使い慣れた物や好みを活かしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者各自の出来る事、出来ない事を全職員が把握し、その身体状態に合わせ、浴室、廊下、居室に手すりを設け、少しでも安全かつ自立した生活となるよう支援している。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101489		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン井手園 3F		
所在地	長崎県西彼杵郡時津町元村郷897番地		
自己評価作成日	平成27年2月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

モン・サン理念である『優しく・楽しく・元氣よく いつも笑顔で』を掲げ、職員は日々、入居者様に寄り添うケアを心掛けています。母体の医療機関との連携も密にとっており、地域医療、高齢者医療を実践していますので、入居者様、ご家族様とも安心して頂けると思います。また、『ひやりはっと・事故防止』『身体拘束・高齢者虐待防止』『感染症予防』委員会活動を月に一度開催し、サービスの質の向上に努めています。当事業者は少し高台に立っており、7階建ての建物のどのフロアからも四季折々の風景を楽しむ事ができます。また、地域の清掃活動や敬老会への参加や毎年恒例となった夏祭りには多くの近隣住民の皆様にお越しいただいており、地域に根差した施設運営の努めています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	分かりやすい言葉の事業所理念を掲げ、働く方々も毎日の業務の中に活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会参加、文化祭への作品出展、自治会での防災学習、お祭りの参加等、交流に努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会へのホーム紹介、運営推進会議での役場への認知症の方に対する理解などお話ししたり、ご意見を伺ったりして活かす努力をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での報告を基に、ご意見に対する検討や話し合いを行い、改善や実現が出来るように努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場や地域包括支援センターとは連絡や相談を行っています。役場からもホームの苦室状況、見学の問い合わせをいただく事もあります。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼・夜を通して入居者の行動から目を離さないように注意を行い、危険もないように努力を行い、玄関等への施錠を行わなくても良いように努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会への参加、ケア会議に参加して問題などを話して虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や会議等で話し合い、それを活用できるように学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章やパンフレット等を用いて説明を行い、入居者や家族の不安・疑問等にも十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族、利用者、地域住民に参加してもらっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員との個人面談や数人単位と話をする機会を設け、運営や日々のケアに関する意見交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、労働条件における小さな疑問にも理解、納得の出来る説明を行い、職員ひとり一人が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力、意欲について十分に発揮できるように、法人内で定期的に研修会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていることや不安に思っている事を傾聴し、寄り添うことで安心を感を与える事が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に困っていることや不安に思っている事をお聞きし、要望に応える事が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケア会議等を用いて、本人やご家族に意見を聞き、サービスに活かせるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ生活の中で、会話をしながら洗濯物を畳んだり、テレビを見たりして、一緒に生活をしていくという気持ちで取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡や相談を行いながら、本人にとってより良い環境になるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の方がいつでも面会に来たり、外出が出来るように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームでのピクニック、ドライブ、レクリエーション等を通じて、皆で仲良く、又ホールでも入居者同士係りあえるような環境作りを考え、支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人やご家族からの相談やご意見は快く応じ対応するように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を出来る限り取り入れるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に協力して頂いたり、好きなことや得意なこと、以前の仕事等を聞いて、本人に合わせたケアを心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事や出来ない事の把握に努め、本人が持っている力を活かせるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議を行いチームの意見や本人やご家族の意見を聞いて介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個人記録として時間時間に細かく日々の様子をケアプランに沿って記録しており、気づいた事を話し合っ介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	チームで話し合い、出来る限り本人やご家族のニーズに対応できるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア慰問をして下さる方々もおられ、入居者の皆さんも大変喜んでおられます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期的な受診や、受診が困難な入居者には主治医が往診をして下さっています。また、体調が悪い時や眼科・歯科耳鼻科等の専門の医院にも受診が出来るよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルサインチェックを毎日行い、異常がある時や顔色が悪い時、食欲がない時などは看護師に相談をして支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は食事内容や最終排泄日など入院前の情報を細かく記入した連絡用紙を病院へ預けて情報を伝えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の際に重要事項説明にて方針を説明、納得いただくよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時のマニュアルが各フロアにあり、いつでも職員は確認できるようになっている。また、定期的な研修も開催されており、実践力を身に付ける環境を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	災害発生時に入居者を迅速に避難させる事ができるように定期的に避難訓練を行っており、運営推進会議等にて自治会との協力関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活習慣があり、考えがあるため、本人の気持ちを一番に考えた対応を心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が一方向的に押し付けたりせず、一つ一つ本人に尋ね、確認を行いながらケアを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースに合わせ、急がせたりする事がないようケアを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方は化粧品を付けて頂いたり、男性の方は髭剃りのお手伝いを行ったり、毎日の生活が楽しめるよう支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在はお手伝い片づけが難しく出来ないが、食事の嗜好は伺って献立づくりに活かしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢や体格に応じ摂取量を考えて提供しています。栄養面も栄養士の指導の下に支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きをご自分で出来る方は行って頂き、難しい方は介助にて支援している。また歯科の往診もあり、歯科医からの口腔ケア指導も行って頂きながらケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導を行っている方もいるが、当ユニットでは現在介護度が高く、オムツを使用されておられる方が多いです。昼間はトイレ誘導するも夜、寝ておられる時はオムツを使用するなど、その方に合わせた排泄支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の野菜、おやつに果物を多く取り入れたり、水分量の調節、毎日のラジオ体操を行うなど、腸の動きを活発にするような取組を行い、便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯や曜日は中々本人の希望通りとはいきませんが、ゆっくりとお風呂を楽しんで頂けるように時間を取ったり、入退院の前後には出来る限り入浴をして頂けるよう努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝をされる方、されない方、夜に寝る時間も本人の眠りたい時間に寝て頂くよう支援しています。また、冬場は加湿器を使用するなど気持ちよく寝れるよう支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化などがあれば往診の時などに主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生日にはケーキを作ってお祝いしたり、年間の行事には特別なメニューを作って食べて頂くなど、楽しみを実現できるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員やケアマネと共にお出かけ支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族や職員が付き添って所持金を確認しながら、買い物の実現できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも対応しています。手紙は宛先を確認して投函しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室空間は常に掃除を行い清潔を心がけています。居室、トイレ、浴室にはわかりやすく表示をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全ての居室は個室となっており、一人になれるスペースはあります。昼間はホールで他の入居者の方々と過ごして頂けるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団やソファ、テーブル等、自宅で使われていた物を持ってきていただき使用して頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には洗面台、すぐに間に合うトイレ、収納に困らないクローゼット、個々の生活空間が保たれるよう工夫しています。		